

2026年6月23日

Institution for a Global Society 株式会社

<白書発行のお知らせ>

管理職と一般社員、最も差がつく力は「影響力の行使（+17.3pt）」 ——29社・7,418名・約276万件の評価データによる実証

IGS『「GROW360+」人的資本白書 2025年度版』、本日発行

管理職登用・自己認識・成長パターンなど5知見を公開、無料ダウンロード開始

監修：小野浩氏（一橋ビジネススクール教授）

Institution for a Global Society 株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 COO：中里 忍、以下「IGS」）は、本日2026年6月23日（火）、『「GROW360+」人的資本白書 2025年度版』を発行しました。人的資本経営に継続的に取り組む29社・7,418名の360度評価コンピテンシーデータ（評価素点2,763,387件）を分析した実証レポートです。管理職登用・育成・人材評価の精度に関わる5つの知見を本日より無料でダウンロードいただけます。

▶ ダウンロードフォーム：<https://www.grow-360.com/whitepaper-2025>

GROW360+

人的資本白書

2025年度版

能力データは人事の意思決定をどう変えるか

29社

分析対象企業

7,418名

分析対象者

約276万件

評価素点データ

監修：一橋ビジネススクール 小野浩教授
Institution for a Global Society株式会社 2026年6月23日発行

▶ 無料公開中

1. 本白書が明らかにした「5つの知見」

知見1：管理職と一般社員で最も差がつく力は「影響力の行使」（+17.3pt）である

上級管理職と非管理職の平均スコア差が最も大きいのは「影響力の行使（共感を生み、巻き込む推進力）」（+17.3pt）。「論理的思考」「課題設定」「誠実さ」が続きます。役職が上がるほど全般に能力は高まりますが、差がつく力は特定の領域に明確に偏っていました。管理職候補の選定基準を見直す手がかりになりえます。

プレスリリース

知見 2：自己評価と他者評価のズレは、ほとんどの人にみられる

自分を実態より高く見積もる「過大評価型」、低く見積もる「過小評価型」、ほぼ一致する「適正認知型」の3類型に分かれます。たとえば「情熱・宣教力」は多くの人の方が実際より低く見積もる傾向（-9.9pt）。タイプによって効果的なフィードバックは異なり、一律の研修設計では成果が出にくいことを示唆します。

知見 3：補正なしでは「誰が評価したか」（評価者バイアス）がスコアに混入する

評価者 12,346 名の分析で、平均より甘い評価者が約 23%、厳しい評価者が約 21%。あわせて約 44%に採点の偏りがみられました。全体の順位は高い相関（0.924）で保たれる一方、個人では約 7 人に 1 人が 10pt 以上、約 26 人に 1 人が 20pt 以上、順位を動かします。IGS は特許取得の補正技術（登録番号：6589257）で、この「見えない不公平」を統計的に取り除いています。

知見 4：人材の成長は 4 パターン。そしてタイプは変化し得る

1 年間のコンピテンシー変化は「成長型」（18%）「やや成長型」（39%）「安定型」（34%）「伸び悩み型」（9%）の 4 類型に分かれます。重要なのは、タイプは固定ではなく、適切な介入によって変化し得るという点です。「伸び悩み型」を事前に把握し、介入を設計できる可能性をデータが示しています。

知見 5：管理職候補リストは「現管理職に似た人」に偏りやすい

非管理職のうち、管理職候補リストの上位 10%層は現管理職と近い能力構造を持つ傾向があります。ただしこれは「現状維持型リーダー候補」のリストであり、AI 時代に未来の組織が必要とするリーダー像と一致するとは限りません。データが可視化するの「今の基準で選べば誰か」であり、「本当に必要な人材か」を問い直す起点として活用できます。

2. 人事・経営への示唆

本白書は、5 つの知見を「貴社で確認すべき問い」とともに提示します。評価バイアスの補正前後でスコアはどう変わるか、自社の管理職と一般社員で最も差がつく力は何か、候補者リストは未来のリーダー像と整合しているか——これらはいずれも、人材データを持つ企業が今すぐ確認できる問いです。

CHRO・人事企画・人材開発・経営層それぞれに向けた問いと示唆を収録しています。なお、人的資本情報開示（2023 年 3 月期決算より義務化）の基盤データの信頼性という観点からも、評価バイアス補正の有無は本質的な論点となり得ます。

3. 監修者コメント

小野 浩 氏（一橋ビジネススクール教授／『人的資本の論理』著者・「人的資本理論の実証化研究会」共同座長）

「人的資本理論の根幹には、人への投資が能力の向上と成長をもたらすという考えがある。しかし、誰を育てるか、誰を登用するかといった意思決定に、客観的な根拠が伴っていないケースは少なくない。人的資本開示の義務化は、その問題を表面化させた。本書は、そのギャップを埋めるための実証的な試みである。」

プレスリリース

4. ダウンロードのご案内

『「GROW360+」人的資本白書 2025 年度版』は、本日より以下のフォームから無料でダウンロードいただけます。

▶ ダウンロードフォーム：<https://www.grow-360.com/whitepaper-2025>

■ 「GROW360+」について

IGS の「GROW360+」は、気質（変化しづらい特性）・コンピテンシー・スキルの 3 要素を自己評価と他者評価（360 度評価）で測定するプラットフォームです。2016 年のサービス開始以来、特許取得の評価バイアス補正技術（登録番号：6589257）のもと、約 100 万名分の評価データを蓄積。4 領域 25 コンピテンシーの体系的な測定により、人材育成・配置、人的資本開示基盤の整備を支援しています。

会社概要

Institution for a Global Society (IGS) 株式会社

社会で力を発揮するうえで重要な「非認知能力」を中心に、人の能力（コンピテンシー・スキル）や気質（生まれ持った特性）を可視化する評価サービスを提供する EdTech/HRTech 企業です。企業・学校・自治体向けに、行動特性や強みを捉えるツールおよびサービスを提供し、個人と組織の成長と価値創出を支援しています。企業パーパスに「分断なき持続可能な社会を実現するための手段を提供する」、そしてビジョンとして「人を幸せにする評価と教育で、幸せを作る人、をつくる。」を掲げています。2010 年 5 月の創業以来、国内外の多様な組織との協業を通じて、教育・人材領域の変革を推進し、2021 年 12 月 29 日には東証マザーズ市場（現・グロース市場）へ上場しました。

- 所在地：〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-11-2 4F
- 設立：2010 年 5 月
- 資本金：90 百万円（2026 年 3 月末現在）
- 事業内容：学校・企業向けに、非認知能力を含む人の能力・特性を可視化する評価プラットフォームの開発・提供
- 代表者：代表取締役会長 CEO 福原 正大／代表取締役社長 COO 中里 忍
- コーポレートサイト：<https://www.i-globalsociety.com/>

■ 本白書および「GROW360+」に関するお問い合わせ先（企業・団体等）

Institution for a Global Society 株式会社 HCM ソリューション部 中西
MAIL: sales@jp.grow-360.com

■ ご取材に関するお問い合わせ先（メディア）

Institution for a Global Society 株式会社 ブランドコミュニケーション室 広報担当 川村
MAIL: pr@i-globalsociety.com